



本学空手部がお世話になっている、和道流空手道連盟の国際大会が、7月30日31日に東京武道館で開催され、本学で募集をした「言語サポーター」が、会場で活躍しました。

学生の活動レポートの一部と、本学空手会事務局からのメールを紹介します。

和道流空手道連盟国際大会アテンドボランティアに参加して



7月30、31日に東京武道館で開催された「和道流空手道連盟国際大会」にアテンドボランティアとして参加させていただきました。人と人の間に立ち、日本語⇄英語の通訳的な活動を行うというよりは、コート脇での選手の誘導のお手伝いをしたり、禁止事項をしている外国人選手・監督がいたらそばに行って注意の声掛けをしたり、といった活動に携わることができました。

学んできた英語を使ったボランティア活動に参加したいという思いで大会に臨み、緊張もありましたが、それ以上に学ぶことが多くありました。外国の選手も多く参加する大会では、いかに言語面での不安を和らげることができるかが

重要だと改めて感じました。今大会では言語サポーターだけでなく、ネイティブスピーカーの方が放送席で英語のアナウンスをしていらっしゃるったり、外国の審判の方には語学に堪能な審判の方がついていらっしゃる、と様々な人が安心して試合に臨める環境が作られていたように思います。東京五輪に向けて、どこまでをプロの方に任せるのか区分けをはっきりさせるといったことも、さらにより良い言語環境を作る上では大切になってくるのではないかと感じました。今回の経験を今後生かしていくとともに、またこのようなアテンドボランティアに参加したいです。関係者の皆様、2日間ありがとうございました。

(言語文化学部英語専攻2年 後藤亜也佳さん)

7月30日31日に、第52回和道流空手道連盟全国大会の運営のお手伝いをさせていただきました。全国から和道流の選手が集まり、小学生から熟練の先生方まで、形と組み手で技を競い合いました。この大会は国際大会でもあり、アメリカやフランスなど世界各地からも選手が参加しました。そのため、試合の注意事項を英語で伝えるなど、言語的なサポートに関するボランティアを行いました。

私は形競技のコートでサポートに入りました。試合に出場する順番を確認したり、整列の位置の指示を出したり、簡単な英語でコミュニケーションをはかりました。特に大きなトラブルもなく、複雑な通訳を必要とする場面はありませんでした。どの選手も日頃の練習量をうかがわせるレベルの高い演武で、真剣勝負の試合に見ているこちらも気がひきしまる思いでした。

大会の運営は基本的にボランティアで成り立っているようで、審判の先生方、記録の保護者や学生のみなさんからも、空手にかける思いが伝わってきました。あまりお役には立てませんでしたが、貴重な機会をどうもありがとうございました。空手を通じた様々な国と世代の交流が、これからもずっと続きますように！

(大学院言語文化専攻博士前期課程2年 井坂ゆかりさん)

去る7月30日、31日の和道流空手道大会に於ける学生ボランティアの派遣に際しまして、多大なご協力を頂き、誠に有難うございました。

10カ国以上から選手団が訪れる国際大会でしたが、お陰さまで無事終了することができました。学生さんには、夏休み中の暑い時に出勤して頂いて申し訳ありませんでしたが、慣れない武道場で様々な形で活躍していただき、和道流連盟本部からも賞賛されました。色々やりにくい面もあったと思いますが、長時間辛抱強く、本当によくやってくださったと思います。空手会一同からも厚く御礼申し上げます。



VOLASで募集した皆さんに加え、私を含め空手部のOBや現役部員も来賓受付やコートを務めましたので、連日、のべ30名ほどの外大関係者がボランティアとして大会をサポートしたことになります。競技でも外大は女子形で入賞し、男子組手は強豪イングランドと善戦するなど活躍しましたので、世界中の支部に外大の存在感を示せたと思います。

(略)

今後も皆さんがますますお元気でご活躍されますよう、陰ながら応援させていただきます。

(写真は、言語サポーターとして活動中の学生の様子)

(東京外国語大学 空手会事務局長 粟生田 明子さま(本学外国語学部ウルドゥー語科卒業生))

日時: 2016年08月17日